

リピット水田堯——ワークショップと講演会

Akira Mizuta Lippit: A Graduate Student Workshop and Lecture

2013年6月15日(土) Part I 13:00~16:00 Part II 16:00~18:00

一橋大学 言語社会研究科 (東キャンパス 国際研究館4F 大教室)

13:00~16:00 大学院生ワークショップ

片岡佑介

「黒澤明『生きものの記録』における<核>への恐怖を蔽うものについて」

佐喜真彩

「清田政信における流民の声の現れ—情動、動物的なものをめぐって」

田尻歩

「メディウムの探究とアーカイヴ—震災以前と以後の畠山直哉の写真」

コメンテーター リピット水田堯 (南カリフォルニア大学教授)

司会 井上間従文 (言語社会研究科准教授)

発表者紹介 中井亜佐子 (言語社会研究科教授)

16:00~18:00 講演「原子の光と映画の誕生」

映画の誕生の年とされる1895年は「X」線発見の年でもある。この偶然性によって放射能が映す身体と映画の奇妙な *visuality* が結びつけられた。生命の中心と彼方が同時に現れる。リピット水田堯の講演は最近刊行された『原子の光 (影の光学)』(月曜社2013年)にそって映画に映る不可視な *visuality*、*“avisuality”* を取り上げる。

講師 リピット水田堯

講師紹介 鵜飼哲 (言語社会研究科教授)

ワークショップ、講演会ともに入場無料、事前登録不要

リピット水田堯氏：南カリフォルニア大学映画学部および東アジア文化、比較文学科教授。

著書：*Electric Animal: Toward a Rhetoric of Wild Life* (2001), *Atomic Light (Shadow Optics)* (2005), *Ex-Cinema: From a Theory of Experimental Film and Video* (2012)。 *Atomic Light (Shadow Optics)* は『原子の光 (影の光学)』(月曜社)として翻訳・刊行される。

科学研究費補助金 若手 (B)「20世紀後期の環太平洋とアメリカ文学・映像文化：記憶と主体の生成変化」

問い合わせ先 井上間従文 (言語社会研究科) m.inoue@r.hit-u.ac.jp